

園部藩主参勤交代行列図

維新前民政資料は、日露戦争後の全国的な地域作り運動の一環として、京都府が明治 44～45 年（1911～12）に明治維新以前の住民の生活を調査したものです。その中で、参考になるものについては写しを作りました。この図もその写しの一巻で、園部藩主の第 9 代、小出英教(ふさのり)の参勤交代の帰途を描きます。

図を見ると、先払い役の町同心から始まり、前箱・見通しをもつ奴、張弓、具足、差替筒、打物、数人の供方に囲まれて馬に乗る城主、蓑箱、薬、弁当、水桶及踏籠、乗替馬、残押（残りおさえ）、乗籠、山籠、雨具、乗供、荷物へと続きます。描かれる人数は総勢 92 人、馬 7 頭です。南丹市園部町にある市立文化博物館に本図と類似する参勤交代行列図があります。その図と比べると、全体の構成や絵の雰囲気は似ていますが、人数や馬覆いの家紋、注記の内容など細かな点で異なります。顔の表情も違っていて、別の絵師の手になるといえます。南丹市の作品は奥書によると明治 37 年（1904）に「黄雲田延」が自身の記憶により嘉永年間(1848～54)頃の様子を描いたものとあります。黄雲は号で、田延は上田正延（旧園部藩士）の名を略したものです。

さらに奥書には中山氏のもとめに応じて制作した旨が記されています。当館の元図の所有者は園部の今井氏です。中山氏、今井氏は園部藩の家臣であることから、これらの絵は旧家臣たちが 50 年前を懐古して描かせた作品だと推測できます。

(参考) [総合資料館だより No.180 2014年7月](#)



維新前民政資料 88 園部藩主参勤交代行列図 (部分)

(2015年11月4日公開)